

# 新たな時代を豊かに生きる生徒の育成

—Society5.0 で求められる資質・能力の育成を目指して—

竹下 洋一 [鹿児島大学教育学部附属中学校]

Developing students who can live well in a new era: Aiming to foster competencies required for Society 5.0

TAKESHITA Youichi

キーワード：Society5.0、資質・能力の三つの柱、読み解き・対話する活動、思考・吟味する活動、価値を見つけ・生み出す活動

## 1. 主題設定の理由

### (1) はじめに

「働き方の未来 2035～一人ひとりが輝くために～」(厚生労働省, 2016) では、これからの日本の課題として少子化、高齢化による人口の減少、労働力人口の減少、加えて地方の過疎化などを取り上げている。また、それらの課題とともに、2035年に予想される社会の姿として、空間や時間の制約、性別や人種の壁、国境などがなくなっていく姿を予想し、それぞれの人が自分の能力や目標にあった働き方を選択し、社会とバランスがとれる時代がやってくると述べられている。つまり、これからの未来を生きる生徒には、自らの人生をより豊かに生きるための選択肢が今まで以上に多くあり、それとともにあらゆる可能性が拓かれていると考えられる。そして、Society5.0<sup>1</sup>で実現する社会では、AI (Artificial Intelligence: 人工知能)の急激な高度化が進み、前述したような恩恵を受ける一方で、Frey 氏<sup>2</sup>らも述べているように、他国と同様に日本の未来の働き方についても大きな変革のときを迎える。このAI時代には、情報の意味(背景にある現実社会)を理解する力であったり、様々なヒトやモノ、情報が複雑に関係し合っていく中で考えたりする力、道徳的諸価値を基にして判断し、行動する力などがより必要になってくると考えられる。したがって、これからの時代においては、「AIを活用する能力」とともに「AIが代替できない能力」について、地域や学校の現状を把握し、生徒に身に付けさせていく必要があると考えられる。

<sup>1</sup> 人工知能 (AI)、ビッグデータ、Internet of Things (IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが「非連続的」と言えるほど劇的に変わることを示唆するものであり、第5期科学技術基本計画(平成28年1月22日閣議決定)で提唱された社会の姿である。「超スマート社会」とも言われる。

<sup>2</sup> Frey and Osborne 氏は、例えば、現在の米国にある職の約47%が、2030年までに自動化の影響を受ける可能性が高いと試算した。(Carl Benedikt Frey and Michael A. Osborne 「The future of employment: How susceptible are jobs to computerisation?」(2013年9月))

中央教育審議会答申<sup>3</sup>においては、学校教育が目指す生徒たちの姿と社会が求める人材像の関係について「社会や産業の構造が変化し、質的な豊かさが成長を支える成熟社会に移行していく中で、特定の既存組織のこれまでの在り方を前提としてどのように生きるかだけでなく、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力の育成が社会的な要請となっている。」(文部科学省, 2017)と述べられており、こうした力の育成を目指すことが学校教育で長年目標にしてきた「生きる力」の育成につながると示されている。

以上のことから、予測困難な時代の中で、これからの生徒たちは、よりよい社会を創造していくためにAIやデータの力を活用する中で、人間としての強み<sup>4</sup>を發揮し、一人一人が他者との関わりの中で「豊かさ」を追求できる社会を創造していくことが重要になると考えられる。そういった新たな社会を牽引する人材をSociety5.0<sup>5</sup>(文部科学省, 2018)では、次のように挙げている。

- ・ 技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材
- ・ 技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造する人材
- ・ 様々な分野においてAIやデータの力を最大限活用し展開できる人材 等

※ 飛躍知とは、未来を切り拓く多様な知識のこと

そして、これらの人材に「共通して求められる力」として、次の3つの力に整理している。

- ・ 文章や情報を正確に読み解き、対話する力
- ・ 科学的に思考・吟味する力
- ・ 価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力

そこで、本研究では、Society5.0における社会像や求められる人材像を念頭におき、「共通して求められる力」を基に、本校の生徒の実態や教育目標を踏まえ育成するべき力を明確にし、今後の本校での教育活動を充実させるための手立てを講じていきたい。

## (2) これまでの研究に基づく生徒の実態

本校の研究では、平成24年度より「自らよりよい未来を創る生徒の育成」を研究主題に掲げ、6年間の研究・実践に取り組んできた中で、次のような課題が残された。

- 「新しくよりよい考えやものを創り出すことはできるようになったが、そのよさなどを他者に伝えることに対して苦手意識をもっている生徒が見られた。
- 協働して導き出された解、特に最適解について、個々で考え直したり、それまでの自分とは異なる捉え方やモノの見方をしたりできる生徒が少なかった。

<sup>3</sup> 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(答申), 2017年

<sup>4</sup> Society5.0では、人間の強みを「現実世界を理解し、意味づけできる感性」「倫理観」「板挟みや想定外と向き合い調整する力」「責任をもって遂行する力」等を挙げている。

<sup>5</sup> Society5.0(文部科学省, 2018): 「Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」平成30年6月5日, Society5.0に向けた人材育成に係わる大臣懇談会 新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース

- 各教科の授業内容と研究で目指す生徒の姿との関係性が捉えにくい教科もあった。

これらの課題は、伝える力や振り返る力、多面的・多角的に考える力が十分に備わっていないという点や「創造的な学び」と教科の本質との関わりやカリキュラムとしての位置付けが不十分であった点に起因しているのではないかと考えられる。したがって、伝える力や振り返る力、多面的・多角的に考える力などを育んだり、研究を通して育む資質・能力が、どのように各教科の本質につながっていくのかを明確にしたりすることに重点をおいていきたい。

### (3) 学校教育目標から

平成29年3月に公示された新中学校学習指導要領(以下、新指導要領)にも明記されているように、各学校の教育目標を明確に捉えた上で、本研究を進めていく必要がある。本校の学校教育目標(附属中学校要覧, 2018)は、以下の図1の通りである。

<b>【基本目標】</b> 人間の自由と平等を原理とする人間尊重の精神に立脚し、人類の平和を目指し、生活の向上や文化の発展に向かって、自主的・自律的に努力する個性豊かな人間を育成する。	
豊かな感性と人格を磨きながら、真理を求めて意欲的に学び、主体的・協同的に活動していく生徒を育てる。	
<b>【目指す生徒像】</b>	
(1) ゆたかな心をはぐくむ生徒	(2) たくましい体をつくる生徒
(3) 確かな学力を身に付ける生徒	(4) 自分のよさを発揮する生徒
<b>【校訓】</b> 真理・理想・自律・誠実・友愛・剛健・雄飛	

【図1 学校教育目標(附属中学校要覧)】

この目指す生徒像の(1)~(3)に関しては、知・徳・体にわたる生きる力をバランスよく育成することの大切さを示している。そして、(4)においては「何ができるようになるか」という視点のもと、自己や他者、さらには、社会や自然、環境等のために、身に付けた資質・能力を生かす生徒であると考えられる。

### (4) 本研究で目指す生徒像

「平成」という時代が終わり、AIやIoT(Internet of Things:モノのインターネット)、ロボットなどの技術革新が急速に進むこれからの時代に、Society5.0に向けた人材育成にもあるとおり<<我々が目指すべき社会は、経済性や効率性、最適性だけを追求した無機質なものではなく、あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会であるべきであろう。>>(文部科学省, 2018)<sup>6</sup>とあることと、本項(1)~(3)のことから、次のような生徒の育成が必要であると考えた。

- ① 自他のためによりよく問題(課題)を解決することができる生徒
- ② 自分のよさ(アイデアや考え方, 情報, 気持ちなど)を表現し, 他者に伝えることができる生徒

<sup>6</sup> Society5.0(文部科学省, 2018): 「Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる, 学びが変わる～」

平成30年6月5日, Society 5.0に向けた人材育成に係わる大臣懇談会 新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース

- ③ 問題(課題)解決で得たモノ(アイデアや考え方など)を多面的・多角的に考え、他の場面で生かすことができる生徒
- ④ 知・徳・体にわたる「生きる力」がバランスよく育まれた生徒

#### (5) 主題について

##### ア 「新たな時代」とは

「新たな時代」とは、Society5.0 で実現する社会において、人間はA I やデータの力を活用する資質・能力や人間の強みを生かし、多様な人々と関わり合いながら自らの未来を切り拓いていくことが求められる時代と捉えることができる。

##### イ 「豊かに生きる生徒」とは

「豊かに生きる生徒」とは、他者(モノ・ヒト・コト)を理解し共存を図り、一人一人の価値観のもと、自分で満足できる幸せの形(感情的な豊かさ、時間的な豊かさ、場所に関する豊かさ、分かちあいの豊かさ)を見つけ、実現できる生徒と捉えることができる。

#### (6) 副主題について

日本経済団体連合会では、A I を活用できるように準備を整えること、つまり「A I -Ready」な状態にすることが重要であると考え、次のように説明している。<<「A I -Ready」とは、産業や生活など社会のあらゆる領域においてA I を活用することを前提とし、組織や人々がA I やデータを使いこなす体制や素養を備えることである。>>(日本経済団体連合会,2018)。したがって、新たな時代を豊かに生きる生徒を育成するためには、その時代に求められる資質・能力とは何なのかをしっかりと考え、生徒の育成に努めていかなければならない。前述したように Society5.0 で共通して求められる3つの力を基にして、本研究における「Society5.0 で求められる資質・能力」を明らかにし、その育成に努めていきたい。

まず、「文章や情報を正確に読み解き対話する力」については、情報技術の高度化により、身の周りには、多くの情報が溢れ、それらの情報が今以上に容易に手に入る社会において必要になる力であると考えられる。例えば、目の前にある文章や情報について、その真偽はもちろん、それが意図する意味や伝えたいことなどを、物事の背景や文脈を関連付けながら理解する場面で必要な力であると考えられる。また、新たな時代は、多様な人々と関わる機会が多くなることが予想され、それとともに多くの価値観が存在する時代になる。そのような時代では、他者を理解し協働することがより求められるのではないだろうか。本校の生徒の現状を考えると、特に本研究で目指す生徒像の「①自他のためによりよく問題(課題)を解決することができる生徒」や「②自分のよさ(アイデアや考え方、情報、気持ちなど)を表現し、他者に伝えることができる生徒」の育成に関わる資質・能力として考えることができる。したがって、本研究では

<sup>7</sup> Evan Tarver(2015),「The Four Meanings of Wealth」,Pick the Brain

1 感情的な豊かさ：ポジティブな気持ちと豊富な経験をもつこと。自分の感情をコントロールできれば、外的要因に左右されなくなる。2 時間的な豊かさ：自分の価値観で時間を使えるようになること。すると、自分の望む方向に人生を動かせる。3. 場所に関する豊かさ：いつでも好きなときに好きなところへ行けるようになること。自分の居場所を選べるということは、望み通りに暮らし、働けるということである。4. 分かちあいの豊かさ：1番大事な定義である。前述した3つの豊かさによって手に入れた幸福を、周囲と分かちあうこと。

「読み解き・対話する活動」を充実させることによって、このような力につながる資質・能力の育成を目指していきたいと考える。

次に、「科学的に思考・吟味する力」については、一人一人の価値観のもと、自分で満足できるものを見つけ、よりよく実現するために必要になる力であると考えられる。例えば、「A I に目的を与える」という意味では、問題(課題)を発見する場面で必要な力であると考えられる。また、情報技術による解析によって得られた解が、現実世界の状況において適切であるかどうかを考え判断したり、その解決のプロセスにおいて、想定外の事態に対処したりする力は、人間の強みの一つであると考えられるのではないだろうか。本校の生徒の現状を考えると、特に研究で目指す生徒像の「①自他のためによりよく問題(課題)を解決することができる生徒」の育成に関わる資質・能力として考えることができる。したがって、本研究では「思考・吟味する活動」を充実させることによって、このような力につながる資質・能力の育成を目指していきたいと考える。

最後に、「価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探究力」については、自らの豊かさを追求するために必要になる力であると考えられる。例えば、自ら創り出したモノについて多くの価値を見いだす場面で必要な力であると考えられる。また、目の前に最先端のA I や情報技術があったとしても、それを使おうとする意欲や好奇心がなければ、身に付けた力も発揮されることはない。それ以前に、自らの人生において、豊かさを追求する気持ちがなければ、持続可能な発展を遂げることが求められる社会に貢献することができないのではないだろうか。そのような意味で、この力は行動に対する原動力としても重要であると考えられる。この点に関しては、新指導要領総則編(文部科学省, 2018)においては、生徒が、「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる「学びに向かう力、人間性等」は、他の2つの柱<sup>8</sup>をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素であると説明されている。本校の生徒の現状を考えると、この「価値を見つけ、生み出す感性と力、好奇心、探究力」については、特に本研究で目指す生徒像の「③問題(課題)の解決で得たもの(アイデアや考え方など)を多面的・多角的に考え、他の場面で生かすことができる生徒」の育成に関わる資質・能力として考えられるが、①～③の「本研究で目指す生徒」を育むうえで、欠かせない力であり、その力を育むことが「④知・徳・体にわたる「生きる力」がバランスよく育まれた生徒」を育成することにつながると考えた。

以上のような考えから、「新たな時代を豊かに生きる生徒」を育成するためには、「Society5.0で求められる資質・能力の育成を目指して」と副主題を設定して研究を進めることにした。

## 2. 本研究における「Society5.0で求められる資質・能力」を育成する3つの活動について

本研究では、以下に挙げる3つの活動を充実させることで、本研究における「Society5.0で求

<sup>8</sup> 他の2つの柱とは、資質・能力の三つの柱の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を指す。

められる資質・能力」の育成に努めたい。その際、「Society5.0 で求められる資質・能力」について本校の実態等を考慮して、中学校段階で育成すべき各教科等の目標や内容と関連付けながら、教科の本質を見失わないように指導していきたい。本研究における「Society5.0 で求められる資質・能力」については、資質・能力の三つの柱を往還して、各教科で育成するものとして捉えるために、Society 5.0 において「共通して求められる力」を基にして、それぞれの力を「～に関わる資質・能力」として示したいと考える。

#### (1) 読み解き・対話する活動とは

まず、「共通して求められる力」の1つめとして整理されているのが、①「**文章や情報を正確に読み解き、対話する力**」である。この力については、<<知識・技能としての語彙や数的感覚などの学力の基礎に加え、人間の強みを発揮するための基盤として、文章や情報を正確に理解し、論理的思考を行うための読解力や、他者と協働して思考・判断・表現を深める対話力等の社会的スキルなど、読み解き、対話する力が決定的に重要である。>>(文部科学省,2018「Society5.0 に向けた人材育成」)と説明されている。また、新指導要領には、三つの視点(「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」)に立った授業改善が示され、その一つとして「子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める対話的な学び」が実現できているかという視点を示している。「対話的な学び」は、授業改善の視点であり、対話的な学びを通して各教科の資質・能力の育成を図ることを目指したものであるが、この考え方と合わせて対話する力の育成も目指すことが本研究の目的の一つである。本校の生徒の実態として、目の前にある情報を無機質なものと捉え、その情報の背景や、情報どうしのつながりを考えず、問題(課題)を解決している生徒が多く見られる。

したがって、本研究における「共通して求められる力」の一つである「文章や情報を正確に読み解き、対話する力」を「**読み解き・対話する**」ことに関わる**資質・能力**として捉え、それらを身に付ける活動を次のように考え研究を進めていくことにした。

「**読み解き・対話する活動**」とは、情報(文章や式、芸術なども含む)を、その文脈や関係性などを含めて正しく理解したり、他者と対話したりして、自己の考えを広げ深めるための活動である。

#### (2) 思考・吟味する活動とは

次に、「共通して求められる力」の2つめとして整理されているのが、②「**科学的に思考・吟味する力**」である。この力については、<<人と機械が複雑かつ高度に関係し合う社会となっていく中、科学的に思考・吟味する力が不可欠となる。機械を理解し使いこなすためのリテラシーや、その基盤となるサイエンスや数学、分析的・クリティカルに思考する力、全体をシステムとしてデザインする力がこれまで以上に必要な力となる。>>(文部科学省,2018「Society5.0 に向けた人材育成」)と説明されている。つまり、問題(課題)を解決して得られたモノや、その

途中で用いられた考え方などについて、その真偽や有用性について確かめたり、全体の中の部分として俯瞰して関係性を見いだしたりする力を育成する必要があると捉えることができる。また、新指導要領では、「振り返る学習活動」について、生徒が自主的に学ぶ態度を育み、学習意欲の向上に資する観点から重要であると述べられている。本校の生徒の実態としても、自ら導き出した解やその過程で得られた考え方などについて、適宜、振り返って考えるという力が十分に身に付いていない生徒がいる。

したがって、本研究における「共通して求められる力」の一つである「科学的に思考・吟味する力」を「思考・吟味する」ことに関わる資質・能力として捉え、それらを身に付ける活動を次のように考え研究を進めていくことにした。

「思考・吟味する活動」とは、問題(課題)を解決して得られたモノ等、またはその過程で得られた考え方等を振り返り、よりよくするための活動である。

### (3) 価値を見つけ・生み出す活動とは

最後に、共通して求められる力の3つめとして整理されているのが、③「価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力」である。この力については、<<現実世界を意味あるものとして理解し、それを基に新たなものを生み出していくことは、AIによって代替できない人間ならではの営みであり、AIの活用分野が爆発的に広がっていく新たな時代においてますます重要となる。自然体験やホンモノに触れる実体験を通じて醸成される豊かな感性や、多くのアイデアを生み出す思考の流暢性、感性や知性に基づく独創性と対話を通じて更に世界を広げる創造力、苦心してモノを作り上げる力、新しいものや変わっていくものに対する好奇心や探求力、実践から学び自信につなげていく力などが重要である。>>(文部科学省,2018)と説明されている。AI技術の発達により、多くのモノや情報等が時間や空間を越えて手に入りやすくなる社会が訪れる。しかし、それらについて、どれだけの価値があるのかを見いだすのかは人間にしかできないことである。その価値を見いだすためには、自己が備えている価値観をより豊かにし、多面的・多角的にモノを見ることができるようになる必要がある。そういった力に関わる資質・能力を育むことによって、一つの価値しかもっていなかったと思われたモノが、多様な価値を備えていることに気付くことができるようになる。そして、それに気付くことができるようになれば、新たな価値をもったモノを創造できるようになるのではないだろうか。本校の生徒の実態としても、問題(課題)の解決によって得られた最適解について、自らの価値観のみで解の最適性を評価することが多く、その価値が多様な他者にとってどうなのかを考えることが苦手だったり、その必要性を感じなかったりする生徒の姿がある。前年度まで研究してきた「創造的な学び」の実践を踏まえつつ、「価値を見つけ・生み出す力」に着目し実践を積み重ねていきたいと考える。

したがって、本研究における「共通して求められる力」の一つである「価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力」を「価値を見つけ・生み出す」ことに関わる資質・能力として

捉え、それらを身に付ける活動を次のように考え研究を進めていくことにした。

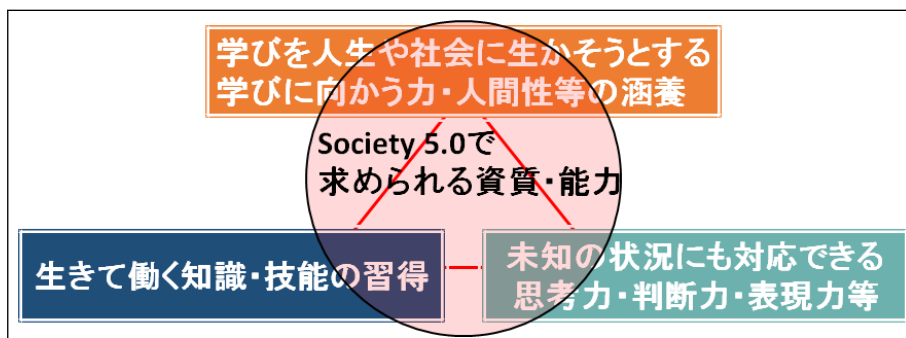
「価値を見つけ・生み出す活動」とは、問題(課題)を解決して得られた解(唯一解,最適解)や創り上げた作品等をもとに、目的に応じて多面的・多角的に評価したり、それらを生かして新たな価値を創造したりするための活動である。

#### (4) 本研究における「Society5.0で求められる資質・能力」と三つの柱との関係について

新指導要領においては、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、ア「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」、イ「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)」の三つの柱に整理するとともに、各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づく再整理を図るよう提言がなされている。

また、「Society5.0で求められる資質・能力」については、これまで誰も見たことがない特殊な能力ではないとして説明され、<<どのような時代の変化を迎えるとしても、知識・技能、思考力・判断力・表現力をベースとして、言葉や文化、時間や場所を越えながらも自己の主体性を軸にした学びに向かう一人一人の能力や人間性が問われることになる。>>(文部科学省,2018)と新指導要領に対しての関係についても述べられている。

したがって、本研究における「Society5.0で求められる資質・能力」を、汎用的な能力の育成を重視する世界的な潮流を踏まえつつ、図2のように、三つの柱(資質・能力)の中に含まれるものとして捉えることにする。



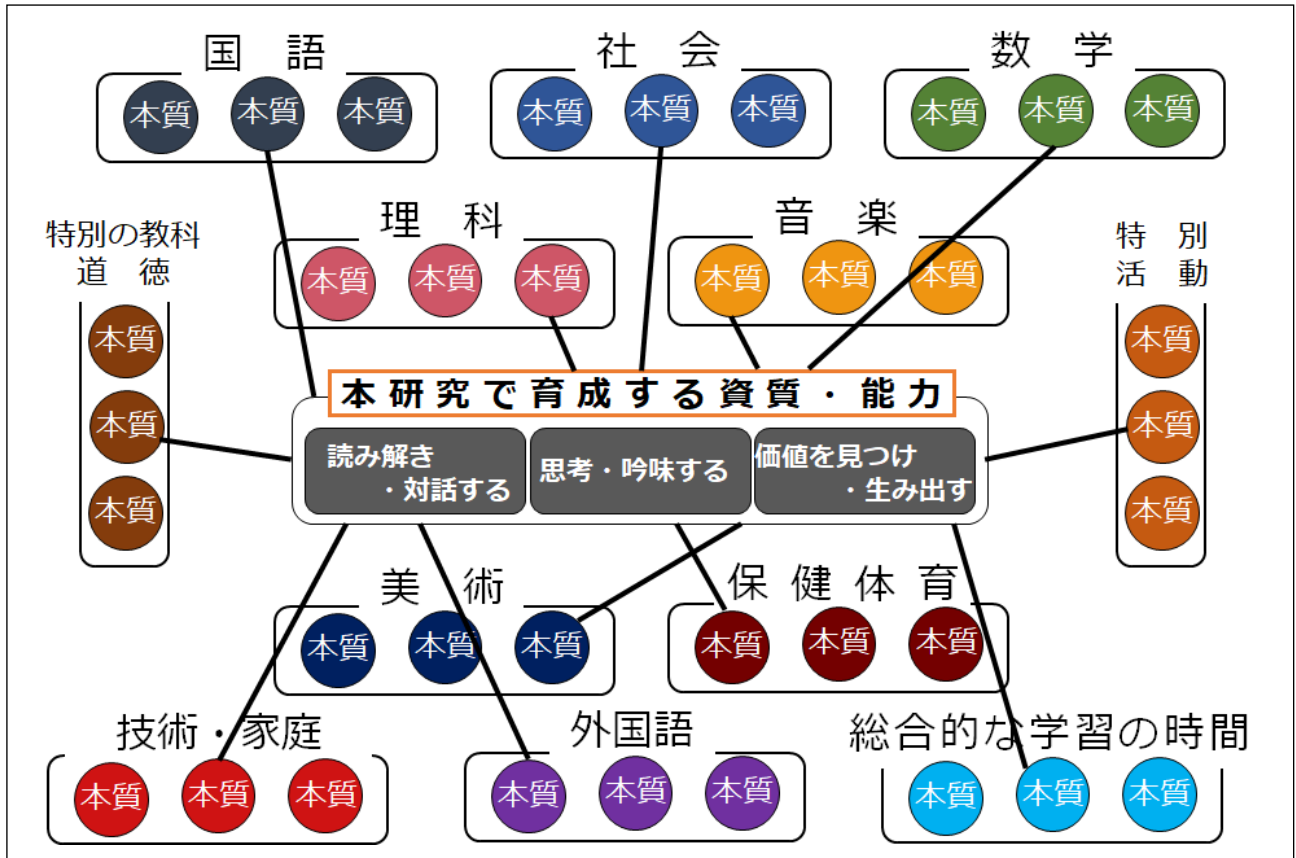
【図2 三つの柱(資質・能力)と Society5.0で求められる資質・能力の捉え方】

この捉え方について、評価の視点から示唆を与えてくれるものとして「児童生徒の学習評価の在り方について(報告案)」<sup>9</sup>がある。そこでは、基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力や問題発見・解決能力など)について、<<教科等横断的な視点で育成を目指すこととされた資質・能力は、各教科等における「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に反映することと示されている。そして、各教科等の学習の文脈の中で、

<sup>9</sup> 文部科学省, 2019, 「児童生徒の学習評価の在り方について(報告 案)」(4)教科等横断的な視点で育成を目指すこととされた資質・能力の評価について, 平成 31 年 1 月 21 日, 教育課程部会資料 2 - 1



これらの資質・能力が横断的に育成・発揮されることを目指すことが大切である>>と評価の在り方が述べられている。また、奈須正裕氏<sup>10</sup>は、<<資質・能力の育成とかコンピテンシー・ベースの教育というのは、各教科等とは別の何かを新たに教える教育ではなく、内容中心で考えてきた結果、その本質<sup>11</sup>を見失いかけている各教科について、本来のあり方を問い直し、実践的に再構築する企てにほかならない。>>(奈須正裕, 2017)と述べている。したがって、本研究における「Society5.0 で求められる資質・能力」を、新指導要領にある三つの柱(資質・能力)とは別に捉えるのではなく、教科等の本質とどのように関わり育成することができるのかを考え、指導・評価していくことが肝要である。そのイメージが図3である。



【図3 本研究で育成する資質・能力と教科等との関わりに関するイメージ図 (例)】

### 3. 研究の成果と課題

新たな時代を豊かに生きる生徒の育成を目指し、本研究における「Society5.0 で求められる資質・能力」を新指導要領と本校の実態等を踏まえて明確に位置づけることができたのではないだろうか。本研究のように、育成を目指す資質・能力を捉えることによって、各教科で育むべき資質・能力が明確になり、そのつながりを意識することによって教科の本質を見失わず授業を実践することができた。

<sup>10</sup> 奈須正裕：上智大学総合人間科学部教育学科教授、「教科の本質を見据えたコンピテンシー・ベースの授業づくりガイドブック」より引用

<sup>11</sup> 教科等の本質とは、教科等ならではの見方・考え方など。例)「エネルギーとは何か。電気とは何か。どのような性質を持っているのか。」のような教科等の本質に関わる問いに答えるためのものの見方・考え方、処理や表現の方法など。

脚注10の書籍より引用

今後は、各教科において、3つの活動「読み解き・対話する活動」「思考・吟味する活動」「価値を見つけ・生み出す活動」の充実と、授業デザインやカリキュラム・デザインを取り入れた実践に取り組むことによって、本研究における「Society5.0 で求められる資質・能力」の育成に努めたい。また、ICTをはじめ、Edtech等(教育におけるAI、ビッグデータ等の様々な新しいテクノロジーを活用したあらゆる取組)の活用や、その導入を見通した資質・能力の育成の在り方について研究を深める必要があると考えている。

#### 【主な参考文献】

- ・文部科学省(2017)：中学校学習指導要領解説 総則編，東山書房
- ・文部科学省(2017)：次世代の教育情報化推進事業(情報教育の推進などに関する調査研究)成果報告書 情報活用能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントの在り方と授業デザイン
- ・文部科学省(2018)：Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる，学びが変わる～，平成30年6月5日，Society5.0に向けた人材育成に関わる大臣懇談会 新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース
- ・文部科学省(2018)：教育振興基本計画 閣議決定
- ・日本経済団体連合会(2018)：Society5.0-ともに創造する未来-，2018年11月13日
- ・田村学(2018)：カリキュラム・マネジメント入門，東洋館出版社
- ・奈須正裕(2017)：教科の本質を見据えたコンピテンシー・ベースの授業づくりガイドブック，明治図書
- ・鹿大附属中(2015)：授業力をアップさせる協働型授業研究
- ・鹿大附属中(2018)：新学習指導要領に対応した「創造的な学び」8つの視点で行う授業改善
- ・鹿大附属中(2019)：新たな時代を豊かに生きる生徒の育成」(1年次) -Society5.0で求められる資質・能力の育成を目指して-